

機関番号：34309

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20592524

研究課題名（和文）京都における近代から戦間期までの看護歴史史料の発掘収集基礎的データの作成

研究課題名（英文）To unearth and collect historical or photographic materials from the early Meiji period to the period of the Second World War in Kyoto and prepare essential data for common use.

研究代表者

高橋 みや子（TAKAHASHI MIYAKO）

京都橘大学・看護学部・教授

研究者番号：20070766

研究成果の概要（和文）：

目的：京都における近代から戦間期までの看護歴史の文献史料、写真を含む資料の発掘収集と利用可能な基礎的データの作成。

研究方法：京都看病婦学校 京都市立看護短期大学 看護史研究者故亀山美知子氏の業績・収集史料の整理とCD保存 京都府・市の看護関係、特に産婆、看護婦、保健婦の史料収集とPDF保存、～を分担し分担毎に研究を進めた。

結果：原著、学会発表、CD・PDF作成を行い公表した。また、史史料の発掘・収集を行った。

研究成果の概要（英文）：

Purpose : We aim to unearth and collect historical or photographic materials from the early Meiji period to the period of the Second World War in Kyoto and prepare essential data for common use.

Methods : Each of us selects from the following objects of study and study each of them.

1. Kyoto Training School of Nursing
2. Kyoto Municipal Civic Junior College of Nursing
3. Analyzing late MICHIKO KAMEYAMA's research on nursing history and academic achievements or collecting related historical materials and preserving them on a CD in PDF format
4. Collecting historical or photographic material regarding midwives, nurses, and public health nurses, in particular, as well as preserving the material in PDF format

Result : We create and publish the collected information as research articles/papers on a CD in PDF format. We unearth and collect historical or photographic materials.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護の歴史、京都看病婦学校、京都市立看護短大

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近代日本の看護関連の文献史料及び写真資料等の保存状況は、悪化の一途をたどっている。特に、最近まで部分的に保存され

てきた史・資料の廃棄・散逸が顕著である。  
(2) その理由として、看護教育の高等教育への移行があげられる。専門学校から短期大学へ、短期大学から四年制大学の移行する



都看病婦学校の医療救護活動の実際、京都看病婦学校卒業生及び生徒による活動の概要について明らかにした。研究史料は、『明治24年岐阜県震災誌』、『京都医学曾雑誌』(1891)、『女学雑誌』(1891-92)、『陸軍々醫學曾震災地派出員報告』(1892)、『官報』(1891-92)等を用いた。岐阜県では濃尾地震発生直後から順次、医療救護のための治療所を29カ所設置していた。看護職は九州から関東地方に至る広域から参加しており、女性(看護婦)と看護人で延100人、英国人女性宣教師4人も含まれる。また、京慈恵医院看護婦教育所、京都看病婦学校、桜井女学校付属看護婦養成所、日本赤十字社看護婦養成所の4校から、生徒を含む近代看護教育を受けた看護婦；トレインド・ナース35人が、29治療所中12カ所の治療所で活動していた。京都看病婦学校は、卒業生と2年次生計9人が7治療所に派出している。

9人の活動開始期間と活動内容に関しては省略するが、地震発生2ヵ月以上経過、治療所で活動したトレインド・ナースは、当時の教育者に「常に患者を保護する」と評価され、教育を受けた看護婦の災害救護活動の有用性が示唆された。

論文 竹中京子、依田和美、岡山寧子：濃尾地震被災地の避病室における京都看病婦学校卒業生の活動

研究目的：第二報として、岐阜県被災地で1891(明治24)年11月初旬から発生した腸室扶私病患者の避病室における看護について明らかにした。研究史料は、明治24年岐阜県震災誌、『女学雑誌』(1891-92)、『東京婦人矯風雑誌』(1892)、『衛生同業報』(1891-92)等を用いた。岐阜県は、初冬期の腸室扶私病発生を濃尾地震の二次災害として捉え、感染の拡大予防を目的に厳重な隔離をし、9カ町村に避病室を設置した。翌25年2月迄の開設期間中の患者総数329人は、同時期岐阜県下の腸室扶私病患者数の72.5%を占めたが、致死率は9.4%で他の市町村より低く、救済費による腸室扶私病対策の効果を示唆していた。7カ町村では、地元岐阜県を始め東京、大阪等から14人の女性(看護婦)が参加し、岐阜県看護人3人を含む合計17人の看護職が避病室で活躍したが、近代看護教育を受けた看護婦トレインド・ナースは、京都看病婦学校卒業生の2人のみであった。卒業生の活動は、ベリ-同志社病院長や初代看護監督リンド・リチャーズに始まる京都看病婦学校の教育効果を実証したものであった。

また岐阜県が義捐金から食費名目で震災医療救護活動看護婦個人宛に支給した一日20銭は、1892(明治25)年以降多出する派出看護婦会の看護料金として派遣看護婦の日給の最低賃金の目安となり、看護婦の経済的自立を促進している。京都看病婦学校卒業生の濃尾地震医療救護活動は、トレインド・ナースとしての伝染病隔離施設(避病室)における活動の嚆矢であり、看護婦養成の黎明期に看護の社会的評価を高める上で大きく貢献したと云える。

同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動

学会発表 岡山寧子、竹中京子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その1)～第1巻1号から第2巻10号(明治34年-44年)の概要～

同校の同窓会誌『おとづれ』の存在は、看護史研究会(1983)、遠藤・山根(1984)、小野(2003)によって既に報告されているが、『おとづれ』に焦点を当てた研究は、殆ど見当たらない。本研究では京都看病婦学校の教育成果を卒業生の活躍から探るため、創刊から廃刊への経過や同窓生の動静をはじめとする主な掲載内容について検討した。その結果、同窓会誌「おとづれ」は、同窓生自身の申告による活動状況が掲載されていたこと、特に病院・学校の開設12年目以降の大きな変革の詳細な状況を卒業生の視点から示していることが明らかになった。「おとづれ」は、京都看病婦学校の動向や教育成果の一端を知る貴重な史料であるといえる。

学会発表 依田和美、竹中京子、岡山寧子：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その2)～卒業生の明治34年から明治44年までの就業状況～

『おとづれ』を用いて、明治21年卒業の第1回生から明治42年卒業の第22回生までの145名について明治34年5月から明治44年12月までの11年間における消息・就業先を詳細に検討した。その結果、卒業生達は、派出看護、産婆開業、病院・医院での臨床看護、また看護・産婆教育の教師として、さらに大工場診療部門の産業看護と幅広い分野において、最新の看護知識を携えて、日本に於ける近代看護職の発展期に、看護界の先導的役割を果たし、時代が要請した看護活動分野の開拓に貢献したことが確認できた。

学会発表 竹中京子、岡山寧子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その3)～年齢に焦点をあてて～

1936(昭和11)年発刊『京都看病婦学校五十年史』には同窓生の年齢に関する情報は殆ど無かった。本研究では『おとづれ』1号1901(明治34)年から10号1911(明治44)年までの10冊の「会員の動静」「会員住所録」から、卒業生の年齢に焦点を当て、1-14回生96人の入学時年齢及び1911(明治44)年時の卒業生の就業状況について検討した。その結果、入学者は20代の女性が最も多く、中央値は24才であった。明治44年 就業者は37.5%、現役の最高齢者は59才で45歳以上の就業者は15.6%、家事・伝道等従事者は38.5%を占めた。退職年齢判明者は24%で、中央値33才であった。結婚を契機に退職したと推測される人が多かった。明治44年の京都看病婦学校卒業生の就業状況は、当時の日本の女性観や医療状況を反映していたが、女性の新しい職業である看護婦の萌芽的な活動の一翼を卒業生は担っていた。

学会発表 岡山寧子、竹中京子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病

婦学校卒業生について～出身地に焦点を当てて～

『おとづれ』に掲載されている「会員の動静」「会員名簿」から、京都看病婦学校卒業生の出身地に焦点を当てて、入学時および1901-1911年の状況について検討した。その結果、入学者数の多い地域は、概ね同志社はじめアメリカンボードの伝道活動と関連が深く、入学時の年齢の高い地域は、関東や東北であったが、学則適用年齢だった。また、11年間の卒業生96人の職場は、外国や関西・関東地方の都市に集中する傾向を示し、新しい女性の職業である看護婦の職場は、母校所在地と同窓会のネットワークに関連していることが考えられた。

学会発表 岡山寧子、竹中京子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その5)～アメリカン・ボード・ミッション所在地との関連について～

『おとづれ』2-10号(1901-1911)に掲載されている「会員の動静」および「会員名簿」から、京都看病婦学校卒業生の動向の中で、特にアメリカン・ボード・ミッション(以下、ABM)所在地との関連に焦点を当てて、1901(明治34)年から1911(明治44)年の就業状況について検討した。その結果、卒業生1-14回生97人中ABM卒業生は64人(66%)、最多の岡山県を含む11道府県から入学し、他15県卒業生の1.9倍だった。ABM卒業生の入学時平均年齢は25.2才で、他県卒業生23.8才に比較し、やや高い傾向がみられた。1901(明治34)年時就業者は61.4%、10年後は48.6%に減少し、卒後経過年の増加に伴って病院から地域の派出看護婦会勤務と就業場所の変化がみられた。病医院と派出看護婦会勤務者のABM卒業生と他県卒業生の就業者割合は、1901年及び10年後に於いても、概して入学時割合の1.9倍に近い比率を示していた。明治期、卒後10年以上経過しても看護活動継続者の多い京都看病婦学校卒業生の存在は、開校当初の宣教看護婦Richardsらの看護の教育効果の一端を実証していると考えられる

学会発表 竹中京子、岡山寧子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その6) - 1901-1911年時の同窓生の現住所に焦点を当てて -

『おとづれ』2-10号(1901-1911)掲載の「会員名簿」を研究対象に、京都看病婦学校1-22回卒業生145人の現住所をデータ化し、1901-1911(明治34-44)年に至る11年間の卒業生の住所録から母校との音信状況に焦点を当て、卒業生の生活状況と同窓会との関わりについて検討した。その結果、住所録を基に、1-22回卒業生145人中、死者12人と音信不通者38人、計50人(34.5%)に焦点を当てた1901-1911年の音信結果から、卒業生の就業状態の有無に関わらず、卒業生と母校同窓会とのネットワークの緊密さが示唆された。

学会発表 依田和美、竹中京子、岡山寧子：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その7)～京都看病婦

学校同窓会による派出看護婦会：京都同志看病婦会～

研究史料に明治44年発行の『おとづれ』1号から10号を用い、京都看病婦学校同窓会の派出看護婦会「京都同志看病婦会」の設立経緯ならびに派出内容について検討した。その結果、京都同志看病婦会は、母校再興を目指しての資金集めのために京都看病婦学校同窓会が創設・運営した派出看護婦会であり、京都看病婦学校ならびに京都産婆学校卒業生を会員として、詳細な派出規定を制定し、幅広い需要に対し質の高い派出看護を提供したことが明らかになった。1911(明治44)年同窓会の解散により比較的短期間で活動を終へるが、当時の京都における看護婦会団体の派出看護の質的レベルの保持・向上への努力に貢献したと考えられる。

学会発表 岡山寧子、竹中京子、依田和美：同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の就業状況～卒後1-5年に焦点を当てて～

『おとづれ』の、特に卒後の就業状況に焦点を当てて検討した。同窓会誌2-10号(1901-1911年)掲載の「会員の動静」「会員名簿」から抽出した1-22回卒業生145人の就業等データ(延べ1095件)を中心に、卒後1-5年のデータにしばり、卒業生の専門職業人としての開始当時の就業状況について探った。その結果、卒業生の10回生～22回生75人における卒後1-5年の就業状況は、卒後1年目は殆どが就業し、就業先の約半数が国内の病院で母校関連が多い。2年目以降になると、日露戦役や母校存続問題とも相俟って、看護職を継続しながらも、他病院、派出看護婦会、教職、従軍への移動が多かった。

## (2) 京都市立看護短期大学の設立過程、創設期の教育体制と学生の状況

研究目的：京都市立看護短期大学は、全国に先駆けて公立第1号として、1954(昭和29)年に発足した。同校はまもなく廃止になる。本研究では、公立第1号として発足し、廃止決定に至る過程及び看護教育上の歴史的な役割を明らかにする。第一報として設立過程、創設期の教育体制と学生の状況を明らかにする。

研究方法：史料・資料：短大保存資料(京都市立看護短期大学設置申請書、看護婦養成所指定申請書、文部省の実地視察結果、学則など)京都市会(定例会)会議録、京都市立看護短期大学30年史、京都市立看護短期大学同窓会誌(12、40、50周年)と会報、京都市職員録(昭和26年度以降、ただし欠損の年度あり、収集継続中)、大蔵省職員録(昭和29年度以降)、京都府学事関係職員録(昭和35年度以降)、新聞記事などを用いた。インタビューによる聞き取り調査：第1期生3名

結果：1. 短期大学の組織運営

教育目的及び使命：則1条で「女子に保健衛生に関する実際的な専門職業に重きを置く大学教育を施し、文化的に有為な社会人を

育成して、社会福祉に貢献し得る有能な看護婦を養成する」と示されている。第1期生は、京都出身者13名、地方出身者7名の20名が入学した。

創設期の運営状況：設立関係者は、前身校である「京都市高等看護学院（甲種看護婦養成所として1951年8月指定）」の昇格・移行という捉えで整備されていた。例えば、移行期間は、学院長と学長兼務（本務は病院長）、校舎・寮はもとより、専任教員も兼務していた。

看護婦学校指定：保婦助産婦看護婦法に基づく指定は、大設置認可より1年遅れの1955年6月になった。看護婦学校指定にあたって、短大設置認可時の教育科目の名称や担当講師の一部変更が求められた。学長は病院長兼務、診療部長のうち6名が教授併任で、専任の学長・教授は、配置されなかった。

看護教員組織：看護系専任教員は3名で、教務主任は「教務補導係長」という職名であったが職位は、すべて講師であった。なお、この3名について、昭和31年9月の京都市職員録では病院看護係の中に、教務主任は衛生局付技術吏員、教員は看護係技術吏員として名前が掲載されている。このことは、大学教員ではなく病院看護婦の位置づけであることを示している。

短期大学設置基準に基づく教員組織：助教授の誕生は1963年度、教授は1971年度、学長は2011年度である。

## 2. 短期大学の教育

教育課程：学則にと、一般教養科目必修12単位、選択科目19単位、専門科目30単位、選択科目3単位、臨床実習40単位となっており、卒業要件は、一般教養科目21単位以上、専門科目72単位以上、総計93単位以上であると規定されている。

インタビュー内容：教育課程（一般教育科目、専門科目と先生）、短大の施設設備、教員体制、看護の考え方、実習病院と実習状況、学生生活、所管の部局の問題、国家試験と就職、短大への入学動機、答辞問題、答辞事件の影響等があげられた。

考察：短期大学は昭和39年の学校教育法の改正によって恒久的な制度とされたが、それまでは昭和24年5月の教育刷新委員会の建議を受けて、学校教育法（昭和24法179）の一部を改正し、暫定措置として修業年限2年または3年の大学を設け、これを短期大学と称した。特に女子の高等教育の場として経済的負担の軽減ができる適切なものであるとして増加していった。

当時の看護教育の大学化は、1950（昭和25）年に天使厚生女子専門学校と聖母女子厚生学院が短期大学に、1952（昭和27）年に高知県立女子大学（家政学部看護学科）、1953（昭和28）年東大医学部衛生看護学科が設置された。1954（昭和29）年、京都市立看護短期大学設立と同時期には、聖路加女子専門学校、日赤女子専門学校が短期大学に変更されている。

天使、日赤、聖路加短期大学は専門学校か

らの昇格で、教育機関としての素地があった。京都市立看護短期大学は、高等看護学院から短大への移行で、関係者の尽力は多大のものであったと認められるが、教員組織特に、看護職の教授、助教授の確保は困難であったことは否めない。

専門的教育の側面からみると甲種看護婦養成を行う高等看護学院は、短大に匹敵するレベルと受け止められていた可能性も考えられる。

第1期生の学生生活では、短期大学や病院の教職員との一体感のもとに育成されていたことが伺われるエピソードも語られているが、設置者・管理者の病院のための看護婦養成という認識と、看護短期大学であってもその大学教育に期待した学生の意識のずれが埋められないまま経過したと推測できる。そのことが、第1回卒業式の答辞につながったと考えられる。

（3）看護研究者 故亀山美知子氏の業績を整理、史料・資料をPDFに保存、保存目録を作成、CD-Rに保存。

福本恵、岡山寧子：近代日本看護史研究者の故亀山美知子氏が残した著書、完成ゲラ刷り原稿、既発表原稿、収集した看護歴史関係史料・資料、単行本を整理し、史料・資料を全てPDFに保存し、保存目録を作成し、CD-Rに保存した。

内訳は 個人史関係の単行本及び資料、46件 身体論及び女性の身体関係2件（含多数の論文） 思想及び考え方関係14件（含婦人新聞、婦人戦旗・働く婦人、東京婦人矯風雑誌、森有礼の婦人観、新婦人） 女子教育関係17件（含大日本婦人教育会雑誌、婦人教育雑誌、指路協会百年の歩み、女子学院五十年史、お茶の水女子大学百年史） 女性史関係41件（含日本巫女史、日本のシャーマニズムー民間巫女の伝承と生、日本列女伝、近世名婦伝、大日本婦人録、大正期の職業婦人、女学雑誌、婦人新報、婦女新聞、婦人新聞、愛国婦人会、婦人矯風雑誌、）である。

（4）京都府・京都市を中心とした看護関係、産婆、看護婦、保健婦の史料収集とPDF保存。  
高橋みや子：近現代資料刊行会：近代都市環境研究資料叢書より、医学、病院、産婆に關係する統計的データ及び法令、保健婦、病院、医学関係史料を収集都市及び地方自治体の諸規則類を収集した。郡誌マイクロ版集成より、京都府下の医療保健分野、特に産婆、看護婦、保健婦、病院、医学関係史料を収集した。現在、PDFに保存中である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

竹中京子、依田和美、岡山寧子：濃尾地震医療救護活動における京都看病婦学校卒業生と生徒の活躍、日本看護歴史学会誌 24

号、55-69、2011.

竹中京子, 依田和美, 岡山寧子: 濃尾地震被災地の避病室における京都看病婦学校卒業生の活動、日本看護歴史学会誌 24 号、70-85、2011.

岡山寧子: 同志社病院・京都看病婦学校ではじめられた看護教育～リンダ・リチャーズの日本での活動から～、京都府立医科大学雑誌 119(2): 89-98、2010.

依田和美, 竹中京子, 岡山寧子: 京都看病婦学校教育施設完成までの経緯とその概要、日本看護歴史学会誌 23 号、68-78、2010.

〔学会発表〕(計 12 件)

岡山寧子, 竹中京子, 依田和美: 年次報告書からみた同志社病院・看病婦学校の開設後 10 年間における活動 日本看護歴史学会第 24 回学術集会講演集、98-99 (2010, 9) <平成 22 年藤沢市, 慶應義塾>

竹中京子, 依田和美, 岡山寧子: 京都看病婦学校と濃尾震災医療救護活動. 日本看護歴史学会第 24 回学術集会講演集、62-63 (2010, 9) <平成 22 年藤沢市, 慶應義塾>

依田和美, 竹中京子, 岡山寧子: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 7)～京都看病婦学校同窓会による派出看護婦会: 京都同志看病婦会～、日本看護歴史学会第 23 回学術集会講演集、98-99 (2010, 8) <平成 21 年東京, 聖路加>

岡山寧子, 竹中京子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の就業状況～卒業後 1-5 年に焦点を当てて～第 29 回日本看護科学学会学術集会講演集、(2009, 12) <平成 21 年幕張メッセ>

植村小夜子・大平政子: 京都市立看護短期大学の設立過程. 日本看護歴史学会第 23 回学術集会講演集、92-93 (2009, 8) <平成 21 年聖路加大東京都>

岡山寧子, 竹中京子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 5)～アメリカ・ボート・ミッション所在地との関連について～、日本看護歴史学会第 23 回学術集会講演集、94-95 (2009, 8) <平成 21 年東京, 聖路加>

竹中京子, 岡山寧子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 6) - 901-1911 年時の同窓生の現住所に焦点を当てて - , 日本看護歴史学会第 23 回学術集会講演集、96-97 (2009, 8) <平成 21 年東京, 聖路加>

岡山寧子, 竹中京子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生について～出身地に焦点を当てて～、第 28 回日本看護科学学会学術集会講演集、356 (2008, 12) <平成 20 年博多>

岡山寧子, 竹中京子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 1)～第 1 巻 1 号から第 2 巻 10 号 (明治 34 年 - 44 年) の概要～. 日本看護歴史学会第 22 回学術集会講演集、50-51 (2008, 8) <平成 20 年九大博多>

依田和美, 竹中京子, 岡山寧子: 同窓会

誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 2)～卒業生の明治 34 年から明治 44 年までの就業状況～、日本看護歴史学会第 22 回学術集会講演集、52-53 (2008, 8) <平成 20 年九大博多>

竹中京子, 岡山寧子, 依田和美: 同窓会誌『おとづれ』からみた京都看病婦学校卒業生の活動(その 3)～年齢に焦点をあてて～、日本看護歴史学会第 22 回学術集会講演集、54-55 (2008, 8) <平成 20 年九大博多>

福本恵, 草加二三子: 岡山県における戦前・戦後の保健婦教育を支えた人たち. 日本看護歴史学会第 22 回学術集会講演集、25-26 (2008, 8) <平成 20 年九大博多>

〔図書〕(計 3 件)

グレッグ美鈴・池西悦子編集, 南江堂、NURSING 看護学テキスト 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う、高橋みや子第 3 章 看護教育制度 1 看護教育制度の歴史の変遷、2009.12.41-58

山本あいつ子, 日本看護協会出版会、助師基礎教育テキスト 第 1 巻助産概論、高橋みや子, 第 5 章 1. お産の歴史、2009.11、118 - 141

日本看護歴史学会編集, 川嶋みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修, 日本看護協会出版会、日本の看護 120 年 歴史をつくるあなたへ、高橋みや子, 災害と看護、2008.11、145 - 164

〔その他〕

(1) 看護研究者 故亀山美知子氏の業績関を整理、史料・資料を PDF に保存、さらに保存目録作成、CD-R に保存。

福本恵, 岡山寧子: 近代日本看護史研究者の故亀山美知子氏が残した著書、完成ゲラ刷り原稿、既発表原稿、収集した看護歴史関係史料・資料、単行本を整理し、史料・資料は全て PDF に保存、保存目録を作成し CD-R に保存した。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 みや子 (TAKAHASHI MIYAKO)

京都橘大学・看護学部・教授

研究者番号: 20070766

### (2) 研究分担者

岡山 寧子 (OKAYAMA YASUKO)

京都府立医科大学・医学部・教授

研究者番号: 50150850

福本 恵 (FUKUMOTO MEGUMI)

神戸常盤大学・保健学部・教授

研究者番号: 40290217

(H21～H22: 研究協力者)

大平 政子 (OHIRA MASAKO)

元・明治国際医療大学・看護学部・教授

研究者番号: 50141437

(H22: 研究協力者)